

第3回多摩市立地適正化計画検討懇談会

(令和8年1月23日)

議事日程

- 第1 署名委員の指名について
- 第2 策定スケジュール及び第2回検討懇談会の意見と対応方針について
- 第3 多摩市立地適正化計画骨子（修正案）について
- 第4 オープンハウスについて

都市整備部長 それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思
います。

多摩市都市整備部長の小柳でございます。本日もお忙しい中、御出席
いただきましてありがとうございます。どうぞよろしく願いいたしま
す。

本日は、第3回の多摩市立地適正化計画検討懇談会でございます。お
手元の資料を御覧いただければと思いますけれども、本日の議事は次第
のとおりでございます。そのうちの非公開と記載させていただいており
ます案件につきましては多摩市立地適正化計画検討懇談会設置要綱第6
条第4項に基づき、非公開とさせていただきます。

資料につきましては、お手元の i P a d で御確認いただければと思
います。

こちらから先につきましては中林会長に進行をお願いしたいと思います
ので、どうぞよろしく願いいたします。

中林会長 年度末のお忙しいところ、ありがとうございます。本日もよろしくお
願いいたします。

それでは、本日の後半の案件が非公開とのことですが、多摩市立地適
正化計画検討懇談会設置要綱第6条第4項の規定に基づきまして、案件
により公開、非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全員異議なし)

中林会長 ありがとうございます。それでは、後半の案件につきましては非公開
といたします。

また、傍聴者ですけれども、会場の都合により本日は先着順5名以内
とさせていただきます。傍聴希望者はございますでしょうか。

事務局 ございます。

中林会長 それでは案内してください。入室を許可します。

(傍聴者入室)

中林会長 それでは、ただいまより会議に入りたいと思います。ただいまの出席
委員は5名であります。委員総数5名でありますので、定足数に達して
おります。

それでは、これより第3回多摩市立地適正化計画検討懇談会を開会いたします。

それでは、最初の日程第1、「署名委員の指名について」です。多摩市立地適正化計画検討懇談会設置要綱第6条第5項の規定に基づき、会議録を作成することとなっております。会議録につきましては、作成後、要綱上の規定はありませんが、署名をすることとし、会長であります私と他の1名を指名させていただいております。順番でお願いしておりますけれども、今回は松本暢子委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

松本（暢）委員 はい。

中林会長 ありがとうございます。それでは、私と松本暢子委員とで会議録に署名させていただきます。

それでは続いて、日程の第2「策定スケジュール及び第2回検討懇談会の意見と対応方針について」です。

事務局より説明をお願いいたします。

都市計画課長 それではよろしくをお願いいたします。日程第2、策定スケジュール及び第2回検討懇談会の意見と対応方針について御説明させていただきます。

資料1-1をお開きいただきたいと思います。前回の第2回検討懇談会を11月10日に開催いたしまして、計画の骨子案をお示しし、意見交換を行いました。本日は、前回の懇談会でいただいた御意見を踏まえた骨子の修正案をお示ししておりますので、内容を御確認いただきたいと思いますと考えております。

あわせて、オープンハウスの資料につきましてもお示ししておりますので、御確認いただきたいと思います。なお、オープンハウスにつきましては、2月26日木曜日の夕方から夜間にかけてと3月1日の日曜日の日中に実施予定でございます。オープンハウスでの周知、意見聴取を経まして、来年度は計画書の取りまとめを行いまして、パブリックコメントや住民説明会を行いながら、令和8年度末の計画策定・公表を目指すスケジュールとしてございます。

続きまして、資料1-2をお開きいただきたいと思います。第2回検討懇談会でいただきました主な御意見と対応方針を整理したものでございます。1ページ目が、骨子案に修正・反映した御意見、こちらは日程第3の資料2で改めて御説明させていただきますので、概要について御確認いただきたいと思います。また、2ページ目が、今後計画策定を進めていく際に参考とさせていただく御意見として整理しておるものでございます。

それでは、まず1ページ目の計画骨子に修正・反映した意見を御覧いただきたいと思います。まずNo.1ですけれども、現況と課題に関する御意見でございます。ニュータウン区域の「郊外部」は、違う言い回しが望ましいのではないかという御意見を踏まえまして、現状と課題の分析において、エリアを示す表現を統一修正いたしました。駅周辺を鉄道駅徒歩圏とし、郊外部は外周部としております。

次にNo.2でございます。計画の位置づけに関する御意見でございます。多摩都市モノレールの延伸に伴い新駅設置が推測される周辺の拠点形成や、リニア中央新幹線開通を見据えた都市機能誘導の戦略について、計画の進捗管理を行いながら、早い段階からある程度の考え方を整理しておく必要があるのではないかといった御意見をいただきました。こちらを踏まえまして、計画の位置づけに、拠点形成に対する考え方を追記いたしまして、5年ごとの計画の評価、おおむね10年後の見直しのタイミングで、関連事業の進捗状況を踏まえまして拠点形成の取組を更新することを想定しております。資料2には、「本計画では、概ね20年先を展望した将来の都市構造を示すとともに、当面10年間は拠点形成に重点を置くものとします」と追記してございます。

続きまして、No.3です。拠点の設定、都市の骨格構造等に関するご意見でございます。尾根幹線沿道は多摩都市モノレール延伸やリニア中央新幹線開通に伴いポテンシャルが上がっていく可能性があり、新しい広域機能を発揮する場として、方向性を押さえておく必要があるという御意見、尾根幹線沿道の既存都市機能や企業立地の維持を図る上では、サービスインダストリー地区も広域型複合拠点に含めたほうがよいとい

う御意見、また諏訪・永山エリアと貝取・豊ヶ丘エリアの2つの広域型複合拠点は、検討の進捗状況を踏まえると、同列の位置づけではないとの御意見をいただいております。これらを踏まえまして、資料2では、都市の骨格構造の図がございますけれども、中長期的な取組である尾根幹線沿道の「広域型複合拠点」の形成について、拠点の範囲を実線と破線で囲み、取り組むエリアの優先順位が分かるよう表現を見直してございます。また、広域型複合拠点の役割に、各種整備によるポテンシャル向上や段階的に土地利用を促進していくことについて追記いたしました。独自の誘導区域の名称につきましては、広域型複合拠点において新しい広域機能を発揮することを見据えまして、「広域都市機能誘導促進区域」に修正しております。

次に、No. 4でございます。都市の骨格構造に関するご意見でございます。多摩都市モノレールの延伸による新駅設置の効果を見据え、都市の骨格構造における公共交通軸の「鉄道」と「モノレール」は同一表現ではなく、異なる表現としたほうがよいといった御意見をいただいております。こちらを踏まえまして、都市の骨格構造の図について、鉄道を「破線」、モノレールを「丸破線」表記にして修正してございます。

次に、No. 5、都市の骨格構造に関する御意見でございます。聖蹟桜ヶ丘駅周辺の都市拠点の中にある地域拠点(コミュニティ施設)「関戸・一ノ宮コミュニティセンター」は、都市拠点に内包されていることを踏まえ、点線等で示してもよいのではないか、都市拠点の名称は他拠点と同様に末尾に(鉄道駅)と入れるべきという拠点の表記、名称に関する御意見をいただきました。これらを踏まえまして、都市の骨格構造の図について、地域拠点(コミュニティ施設)「関戸・一ノ宮コミュニティセンター」は図中に表記しないことといたしまして、都市拠点の名称は「都市拠点(鉄道駅)」に修正しております。

次に、No. 6、居住誘導区域に関するご意見でございます。全ての都市計画公園を居住誘導区域から外す必要はないが、大規模な公園・緑地や将来的に宅地化が想定されない整備済みの公園は居住誘導区域から除外する方向が考えられるという御意見をいただきました。都市計画公

園につきましては、居住者・来訪者の生活・滞在の質の向上につながる施設と捉え、特に広域からの集客力がある総合公園（多摩中央公園等）は将来的に誘導施設へ位置づけることも見据え、居住誘導区域に含める方針としております。一方で、建築等が制限されている「特別緑地保全地区」等は緑地保全の観点から含めない方針に見直しております。

続きまして、2ページ目を御覧いただきたいと思います。計画骨子に反映してございませんけれども、今後の詳細検討において参考とさせていただきます。また、今後の詳細検討において参考とさせていただきます。また、今後の詳細検討において参考とさせていただきます。

No. 7、居住誘導区域に関する御意見でございます。世帯数の増減に着目したニュータウン区域の外周部の人口減少の捉え方、大学が多い多摩市の特徴を踏まえた若年世代の定住に向けた施策展開、段階的な居住誘導の必要性、近隣センターの機能更新について御意見をいただきました。

次に、No. 8、都市機能誘導区域に関する御意見でございます。公共施設・都市インフラの長寿命化や大規模改修、再整備等の推進を位置づけることの必要性、コンビニの都市機能としての重要性、産業施設に対する将来的な方向性の位置づけについて御意見をいただきました。

以上で、日程第2「策定スケジュール及び第2回検討懇談会の意見と対応の方針について」の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

中林会長

ありがとうございます。それでは、ただいまの作業スケジュールと懇談会の意見対応方針について、御質問あるいは御意見等あれば承りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

よろしいですかね。そういう方向の対応をして今日の資料になっていると思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、特にないということですので、次に日程第3「多摩市立地適正化計画骨子（修正案）について」に入りたいと思います。

では、説明をお願いいたします。

事務局

日程第3「多摩市立地適正化計画骨子（修正案）について」の説明をさせていただきます。資料2をご覧ください。

今回は資料1-2でご説明したご意見に対応した修正案をお示ししております。修正箇所は赤字の下線で表記させていただいております。表紙に書いてある目次と構成につきましては大きく変えておりませんので、修正箇所について御説明させていただきます。

1ページを御覧ください。「第1章 立地適正化計画について」の下段、「計画の位置づけ・目標年次・対象区域」について修正しております。目標年次を都市計画マスタープランと同様の2040年代としていること、都市計画マスタープランの実効性を高めるための計画として位置付けていることを追記しております。その中でも、『都市マスで掲げる「拠点別・地域別まちづくり方針」の実現を優先課題として設定し、都市機能誘導区域における拠点形成を重点に進めます』ということで、今回の立地適正化計画で何を重点に置くのかを明記しております。本計画では、目標年次は概ね20年先なんですけれども、今後のいろいろな拠点形成を進めていくに当たり、まずは当面10年間の拠点形成に重点を置いていくとしております。その他、多摩都市モノレールの延伸や、リニア中央新幹線の開業といったところも見据え、今後5年毎に見直しをしながら、その部分を反映していくということを少し意図した形で修正を加えているところでございます。計画の冒頭に、何に重点を置くのか、拠点形成はどのようなサイクルで進めていくのかといったところを記載させていただきました。

続きまして2ページを御覧ください。「第2章 都市の現状と課題」でございます。言葉の修正を加えておまして、「駅周辺」を「鉄道駅徒歩圏」、また、「ニュータウン区域の郊外部」という表現を「ニュータウン区域の外周部」としております。この鉄道駅徒歩圏というのは駅からおおむね1キロとしておまして、今後の都市機能誘導区域の設定と整合する形で考えているところでございます。5ページまで言葉の修正が続いてございます。

続きまして、6ページを御覧ください。立地適正化計画の基本的な方針でございます。主に、都市の骨格構造について修正しておりますので、その辺りを中心に説明させていただきます。ページの下段、都市の骨格

構造、(1) 拠点の設定に、前回の懇談会でいただいた、尾根幹線沿道の広域型複合拠点に関するご意見を反映してございます。一番下段の広域型複合拠点の拠点の役割に、赤字で記載しておりますように、南多摩尾根幹線の全線4車線化整備、多摩都市モノレールの延伸、リニア中央新幹線の整備による交通アクセスの充実などポテンシャルが高まるということ踏まえまして、広域・複合的な土地利用を段階的に促進するとしております。

続きまして、7ページをご覧ください。下段に拠点を示す都市の骨格構造の図がございます。紫色の細長い拠点の広域型複合拠点について見直しをさせていただいてございます。前は、広域型複合拠点の諏訪・永山と貝取・豊ヶ丘が、細長い2つの実線の丸で描いていたものを、今回は諏訪・永山を先行して着手しているということを実線で表記し、西側、貝取・豊ヶ丘につきましては、今後段階的に取組を進めることを破線で表記しております。優先順位が分かるような形で広域型複合拠点の大まかな範囲の見直しをしております。また、貝取・豊ヶ丘と諏訪・永山の間辺りがサービスインダストリー地区となっております。既存の都市機能や、企業集積があるということ、尾根幹線の南側につきましては大学等の広域的な機能が立地しており、それらを維持していくということで、このエリアも含む形で細長く拠点の示し方を見直しております。

それと併せまして、公共交通軸につきましても見せ方を少し変えております。鉄道をオレンジ色の破線、モノレールを丸の破線で示してございまして、今後モノレールの延伸による効果が広域型複合拠点と関係してくるということが分かるよう、表記を変えております。以上が、都市の骨格構造に関する修正内容でございます。

続きまして、8ページを御覧ください。誘導方針について、でございます。都市機能の部分を修正してございまして、先ほどの広域型複合拠点の役割と整合する形で、修正してございます。広域型複合拠点につきましては、ポテンシャルを踏まえ段階的に都市機能を誘導していくという方針を追記しております。また、冒頭の位置づけでもお示しましたように、都市機能につきましては、重点的に進めていくということで、タイ

トルのところに重点方針と追加しております。

続きまして、9ページを御覧ください。「第4章 都市機能誘導区域及び誘導施設」でございます。こちらにつきましても、下段、都市機能誘導区域の設定方針で、広域型複合拠点の役割を見直す中で、今後広域的な都市機能を誘導していく方針としておりまして、本市独自の誘導区域の名称について、前回、準都市機能誘導区域だったものを広域都市機能誘導促進区域と見直しております。名称で、どのような都市機能を誘導していくのかが分かるよう、ネーミングを変えているところでございます。

続きまして、10ページを御覧ください。都市機能誘導区域の概ねの範囲を示す図が下にございます。広域型複合拠点の範囲について、サービスインダストリー地区も含む形で細長く東西を結ぶエリア取りをしております。下図を都市計画マスタープランの土地利用方針図としておりますが、紫の産業・業務地、薄い紫の広域型複合地が入るような形に広域型複合拠点の大まかな範囲を修正しております。広域型複合拠点の左側に水色の点線が描いてありますが、こちらは多摩都市モノレールの延伸に当たる部分ですので、こういったところのポテンシャルを取り込んでいくということも併せてこちらから読み取れるよう、修正を加えているところでございます。

続きまして、12ページを御覧ください。「第5章 居住誘導区域」でございます。意見の対応で出てきましたとおり、下表の、居住誘導区域に含める・含めない区域ということで、前回お示しした際は、都市計画公園・緑地について今後慎重に判断するという形で、保留事項としておりました。事務局で検討しました結果、都市計画公園と緑地につきましては、特別緑地保全地区と「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づく保全地域を居住誘導区域に含めないという形で見直しております。理由・根拠につきましては、建築行為等が制限されており、明らかに緑地を保全していくという強い規制がかかる区域のため、含まない方向性としております。13ページに、今ご説明いたしました保全地区等の位置図を入れております。

残りの「第6章 誘導施策」、「第7章 防災指針」、「第8章 計画の進捗管理」につきましては、修正しておりません。ご説明は以上になります。

中林会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対して御質問あるいは御意見等あれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

西浦副会長 11ページに誘導施設の設定方針があつて、都市拠点と地域拠点の方針が書かれているんですけども、これは広域型複合拠点の設定方針というものは書かれていないのでしょうか。見逃したかもしれないんですけどもどこかに書いてありますか。

事務局 まず前提としまして、広域型複合拠点につきましては、立地適正化計画の法的な都市機能誘導区域には設定しないため、誘導施設を設定しないので、記載しておりません。ただ、このような都市機能を誘導していきたいということは計画書上明記していきたいと考えているところです。

西浦副会長 確かに、ニュータウン再生推進会議のほうでかつちりと決まっているわけでもなく、プラットフォームをつくってやっていくということだから、なかなか書きにくいというのは分かりました。要するに、ここでは書かないということなんですね。

事務局 骨子上は入っておりませんが、計画書上は記載していきたいと思いますので、またご相談させていただきます。

西浦副会長 骨子で何か書くんですか。その記載についてはニュータウン再生推進会議のほうで決めるということでしょうか。

事務局 骨子ではエリアの設定のみの記載となります。

西浦副会長 なるほど。分かりました。では今後ということで理解しました。

〇〇委員 よろしいですか。

中林会長 どうぞ。

〇〇委員 ちょっと気になっていたところなんですけれども、ページ数でいうと10ページのところ、ほかもありますけれども、唐木田駅というのが地域拠点（鉄道駅）ということなんです、実際に唐木田駅は尾根幹線の接点でもあつて、何かその位置づけは少し書いておいたほうがいいの

かなという気がしました。というのは、実際に車などで通ると、唐木田はもう既にかなりお店とかが集積したり、大妻大学もあつたりとか、尾根幹線との関わりが実は強いところかなと思います。鉄道駅だけ書かれてしまっているんですが、ほかの駅と違って尾根幹線に直接的にすぐ行けるので、そういうことは書いたほうがいいかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

〇〇委員 総合福祉センターがありますよね。あと、それから多摩清掃工場も建て替えるとかいう話を、前に見学に行ってそういう話を受けた気がするんですが、そういう施設もあるので、今の概ねの範囲だとそれが入っているんですよね。だから、何か位置づけとしてどういうのがいいのかなというのが、確かに言われてみると気になりました。

〇〇委員 あと、駅前にかなり大型の商業施設もありますね。だから、現実としては、広域型複合拠点の貝取・豊ヶ丘よりもこのほうがはるかに尾根幹線の沿道としては開けていると思います。

〇〇委員 あともう一つ、ここに書いてあって、こういう書き方でいいのかなというのは、小田急多摩線が延伸するように破線が入っていて、これも、位置づけとかいろいろ考えると、どう扱うのがいいのかというのがちょっと悩ましいなと思っています。どこかに延伸のことが書いてあったんだけど、それほどリアリティはないのかなと思いつつ、けれどもこのように書かれると、この位置づけをどうするのかかなと思いました。

都市計画課長 御意見ありがとうございます。唐木田駅周辺は南多摩尾根幹線との連動があるというところで、もう少し何か記述したほうが良いのではないかという御意見をいただいたかと思います。オープンハウスまであまり時間がないところではございますが、もし記述を工夫できましたら、委員の皆様と共有させていただきます。

また、小田急多摩線の延伸につきましては、関係者と意見交換などはしているところではございますが、まだ延伸を進めていくフェーズに至っていません。多摩都市モノレールの延伸は検討を進めていきますということでフェーズが少し異なりますので、ここでの記述は「小田急多摩線の延伸」という文言は入れていないというところでございます。

〇〇委員 ただ、ここに延伸の記載があつて、文言を入れていないというのまどう表現すべきか分からないので、ちょっと違和感があります。

西浦副会長 小田急多摩線が延伸すると相模原駅でして、さらに進むと上溝駅です。相模原市も、計画上そのままなので、まだ骨子ということですがけれども、相模原駅の米軍跡地のこともありますので、ここは現在の記載のままで問題ないかと思います。

中林会長 相模原は神奈川県なんだけれども、忠生とか町田市を通っていくわけですよ。その辺に駅を入れて、場合によるともう一つ手前に野津田が入るのかもしれないし、それで相模原駅ぐらいしか入らないのかなと思うんですけども、町田市がどういう表記をしているかにもよると思うんです。町田市がモノレールは一生懸命なんだけれども、小田急は全く何も書いていないという話であるとすれば、書きようがあるかなという気はしますので、そこをもう一度、町田市の立地適正化計画とか、あるいは都市計画マスタープラン等で確認していただいてということかなと思うんですが、話としてはいまだに残っているので、多摩市の立地適正化計画が現状型でいくのか、将来どうしたいという未来志向型で計画をまとめるのかによっても位置づけが変わってくると思うんです。

 だから、唐木田駅周辺のところは、現状は空き地があまりなくて詰まっているという話かもしれないんですが、そこをそのまま維持していくのか、将来変えていくのか、それにもよってくる話でもあろうかと思うので、そこも位置づけを、全体としてこの立地適正化計画の目標というか、未来型の場合にタイムラインとしては10年先とか20年先とか、あるいは20年先を見ながらとりあえず10年先ぐらいにできるところに力点を入れて書いておくとか、その辺を少し整えていただいたほうがいいのかという気はします。

 10ページの図で見ると都市拠点(鉄道駅)は3つなんですけれども、永山駅周辺は聖蹟桜ヶ丘駅周辺と多摩センター駅周辺と同等の拠点性を持たせようと思うと、かなり力を入れないといけない、やるべきことがいっぱいありそうということになりますし、唐木田駅周辺の尾根幹線エリアが、駅から近いせいもあるんだと思いますけれども、にぎわいか

どうかは別にしても、かなり土地利用がされている。それに対して広域型複合拠点は、鎌倉街道との交差部分は既に特別業務地区なんですけれども、この両側が今後どのように展開していくか。10ページの図では一くくりですけれども、9ページでは、右側の東側が実線で、左側は点線ということになっていて、点線のうち東側半分の鎌倉街道の交差点のところは既に業務化して、土地利用上、居住禁止にされているゾーンがあって、点線の西側には地区計画の学園地区として居住が制限されていて、その先、多摩都市モノレールが延伸して駅が出てくると、かなり大きく動く可能性がある。そういう位置づけでの点線なんだろうと思うんです。だから、その辺の未来をどのように位置づけて、立地適正化計画にどういう形で載せていくのかというのは、もう一度整合性を図っていただいたほうが良いような気はします。

だから、未来志向で言うと、聖蹟桜ヶ丘駅周辺とか多摩センター駅周辺は何かを入れるということが強い思いであるわけでもなくて、むしろ永山駅周辺、唐木田駅周辺、尾根幹線沿道をどうするのかという話が課題としては一番大きい。多摩市として政策課題をどう位置づけるかという話につながっていくのかなと思うんです。

だから、さっき西浦委員からお話があったように広域型複合拠点というのは、同じ拠点扱いなんですけれども、11ページの表には書いていないということで、その辺も最終的にどういう扱いをするか。最後の段階ですけれども、位置づけをきちんとしておいていただいたほうが、立地適正化計画としては最初の枠づけですので、あまり曖昧にしないほうが良いような気はします。

都市計画課長 御意見ありがとうございます。11ページ、誘導施設の例示の中心拠点と地域・生活拠点の区分は、国の「立地適正化計画の手引き」に基づいて分類してございますので、今、多摩市が独自に設定した広域型複合拠点はこの表の中では現れてこないというところでございます。

ですけれども、今後まちが変わっていく中では重要な拠点になってまいりますので、その辺りを骨子の中でどこまで記載できるかというところが、2月末にオープンハウスを実施するため、時間的になかなか難し

いところもございますが、記載できるかどうか検討した上で、最終的に立地適正化計画を示すときには、今いただいた意見などをきちんと示してまいりたいと考えております。

中林会長

9ページの図は、広域型複合拠点を「準都市機能誘導区域」ということで、今後、機能を誘導していきますときちんと書き込んだんですね。それを都市計画マスタープラン等に合わせる形でまとめると10ページのような絵になって、さらに誘導施設を国の手引きに引きずられて書くと11ページになってしまうということで、何か多摩市らしく頑張った9ページがどんどん希薄化していくという感じがしないでもないんですよ。

だから、11ページですが表というよりも、下の設定方針に少し文言で書き込んでおくということができれば、それも一つの方法かなと思います。絵にはできないんだけど、こんな考え方で進めていきますみたいな最後のところにも、準都市機能誘導区域にどのような誘導施設を設定しようとしているのかということのイメージが分かるようにしていくとか、あるいは、唐木田駅周辺というのは将来どんな方向で行くのかということ、10ページのところは絵が大きいので文章を書くスペースがもうないのかもしれないけれども、ページの数字との間を図の上へ持っていけば、あと3行ぐらい取れそうだね。

だから、3行分ぐらい文言で、先ほどのどれぐらいの未来志向を位置づけておくかということ、少し検討して整理していただければ、あまり大きなレイアウトの変更なしで、とりあえずこういう位置づけですということが伝えられれば、一番いいのかなと思うんです。次の改定るときにそこがもうちょっと大きくなるのか、いや、まだ変わっていないからこのままでいいということで、継続的な議論につながっていくような気がいたします。

都市計画課長

ありがとうございます。10ページが、多摩市の都市計画マスタープランに合わせて書いてあるけれども、次のページが国の分類になってしまっているところは、おっしゃるとおりなんです。

なので、実は、これからオープンハウスで住民の方々にいろいろご意

見を聞いていく中で、この誘導施設の設定方針について、国の誘導施設の設定方針はこうなっているけれども、多摩市としては皆さんどのように考えますかというところをいただいた上で、最終的な形では多摩市らしい誘導施設の分類をしていけるようにしていきたいと考えております。ですから、骨子ではこのように書かせていただいておりますけれども、そこは見直してまいりたいと考えておりますので、今の時点ではこういう表記となっているということを御理解いただきたいと思っております。

中林会長

今こうなっているんだけど、オープンハウスのときには、1ページ前のパターンで、これに合わせて例えば永山駅周辺は何が欲しいのかということをしっかり聞くとか、あるいは尾根幹線が4車線になるんだけど、この沿道にちょっと税金が入るような施設を誘導しようとか。多摩ニュータウン周辺の人たちにとっては、都営住宅の建て替えでできた沿道の空き地をどのように使いたいのか、そんな意見もひょっとしたら出てくるかもしれないので、オープンハウスでは、ページをそのまま拡大して同じように聞くよりも、それぞれの地域の話を用意として聞くようなことも少し工夫されていていいのかなと思います。みんな市長ではないから、自分のところとか、ここをこうしたいという局地的な思いを持つ市民のほうが多いと思うので。

どうぞ。

事務局

誘導施設の話で、少し遡るのですが、11ページで国の手引きで中心拠点と地域・生活拠点の例示を挙げています。今の立地適正化計画は、今住んでいる人たちに必要な生活利便施設を誘導施設に位置づけていくというのがスタンダードになっておりますが、つい先日、国のほうでワーキングの取りまとめが出ておまして、来訪や滞在、交流といった生活利便施設以外のものもちゃんと誘導施設的なものとして取り扱ったほうがいいのではないかというものが取りまとめの結果として出てきておりますので、そういったものを取り込んでいくと、広域型複合拠点がそういう受皿になっていくということが方針として書けそうな気もしておりますので、その辺の書きぶりを、骨子になるのか、本編の都市機能誘導区域のところに書くのか、これから検討しますけれども記載ができれば

ばと思います。

〇〇委員 それを伺って、今のこの仕切りというのがどれほど固まっているものなのかというのが分からなかったんです。あくまでも、11ページのように、今、国の分類としてはこうなっています。でも、ここだって今の議論だと、近い将来、結構変わる可能性もあるときに、どこまでここにこだわらなければいけないのか。要するに、9ページのような切り口で、ある程度独自性というんですか、そういうものも打ち出していけるような余地が今の話を聞いていると何かありそうな気もしたんです。むしろ積極的にこういうものをやることによって、先に本格的にそういう流れになる前につかんで、すごくオリジナリティを出せるような感じもします。それからあと、他自治体の立地適正化計画で今回の広域型複合拠点のように、何か独自にやっているようなケースはないんですかね。

事務局 あります。

〇〇委員 それがどういう立てつけのものをどういう名称でやっているのかというのは、基本情報としては必要な気がします。

事務局 そうですね。手引きに載っていないと誘導施設に位置づけるのが難しいという流れだったのが、今変わってきておまして、少し柔軟性を持たせるような形となってきております。今までは法定の誘導区域とせず、独自の設定とし、方針だけを示すということが一般的だったので、今回も独自の設定区域という形で進めております。拠点を形成していきますという方針をしっかりと書き込んでおけば、見直しの際に制度が変わったときにすぐ、法定の区域や誘導施設の設定にスムーズに移行できると考えております。

〇〇委員 そうですね。あと、尾根幹線を四車線化するのであれば、もう少し高度なバス輸送システムとかというものも視野に入るんですよね。で、全国で見ると、そういう太いバス路線みたいなところで似たような発想でやっているような例があれば、結構参考になるのではないかなと思います。何か変えろということではなくて、こういうものをもうちょっと積極的に位置づけてもいいんじゃないかという思いで発言したということです。

事務局

ありがとうございます。

すみません、誘導施設の設定方針について補足です。現時点では骨子なので、大枠、国の「立地適正化計画の手引き」になっておりますが、今後、都市機能誘導区域はエリアを地形・地物のような形でしっかり設定していきます。それに基づく形で、各区域に誘導施設をどのように設定していくかというのは、本編に書き込むことで対応できますので、都市機能誘導区域につきましてはそのような形とし、広域型複合拠点につきましてはそのときにどれくらい書くかが今後の検討になるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

中林会長

立地適正化計画は地方から始まって、今、大都市でどんどんつくようになって、最初につくったフレームが全然大都市に合わないフレームなんですよね。例えば、中心拠点の行政機能で本庁舎といたら、これはまちに一つだけしかないんですみたいな話になってしまうわけですよね。だけれども、大都市だと、決して市役所のあるところがにぎわっているわけではなくて、市役所が外れていて、別の場所がにぎわっていたり、そのような多芯型というか、多拠点型が大都市の市街地なので、多分今どこの都市でもその辺がぶつかっているところだと思うので、割と早く改正されていくような気がしますし、事業に対する補助その他というのはだんだん緩くなってきているのではないかと思いますから、最初の法律でつくったときの手引きにはあまり引っ張られないほうがよさそうな気はしています。後で出てくるんだけれども、資料3がオープンハウスのときに使う資料ですよ。

さっきお話ししたように、骨子をそのままパネル化して、意見を聞くだけではない工夫がされているので、ぜひそういう方向で、永山駅周辺をどうする、多摩センター駅周辺をどうする、聖蹟桜ヶ丘駅周辺をどうする、唐木田駅周辺をどうする、そんな形でとりあえず下からボトムアップ的にまとめると、この誘導施設の設定方針というのは、多摩市としてはこんな方針で4パターンで考えられる。あるいは具体的に言うと5つなんですけれども、都市拠点（鉄道駅）が3つに、地域拠点（鉄道駅）が1つ、独自の誘導区域が1つあるというような形で最終的に立地適正

化計画の第1期計画としてまとめられている。それが、第2期計画でその後の5年なり10年の動向でもうちょっと位置づけが変わったり、国の法律も要綱等がかなり緩和されたり、多様化されてくると、それに合わせた書き方に変えられると、私はそのようなスケジュールというかプログラムの発想で進めていければなと思いました。

よろしいでしょうか。

では、まだ先がいろいろありますので、先に進めさせていただきたいと思いますが、次の、日程第4が「オープンハウスについて」ということなので、ここまで少しお話を展開したいと思います。

では、日程第4「オープンハウスについて」、説明をお願いします。

事務局

日程第4「オープンハウスについて」ご説明いたします。資料3をご覧ください。2月にオープンハウスを予定しておりまして、パネルの案という形でお示しさせていただいております。

1 ページ目、立地適正化計画とはということで、都市計画マスタープランを具体化していくものであること、駅周辺のまちづくりの具体化に向けた都市機能に関する取組を重点的に進めていくことを記載し、立地適正化計画を何のためにつくるのかということをつわりやすく説明したいと考えております。

続きまして2ページをご覧ください。まちづくりの方針ということで、主に骨子に書いている内容をそのまま、「都市機能」、「居住」、「公共交通」と「防災」に関する方針を入れております。先ほどいただきましたご意見をどこまで反映するかは検討したいと考えております。

3ページをご覧ください。都市の骨格構造でございます。ここが一番重要なところになりますけれども、多摩市として、各拠点の役割をどのように考えているのかを上段の構造図と、下段に、どのような役割に応じてまちづくりを進めていくのかを端的に整理しているところでございます。

都市拠点（鉄道駅）と地域拠点（鉄道駅）は、都市機能誘導区域を設定し重点的に取り組みを進めること、その他の地域拠点は、居住誘導区域の拠点として地域に必要な機能の維持を図ること、広域型複合拠点に

つきましては、中長期的に段階的なまちづくりを進めていくことが分かるように整理しているところでございます。

4ページをご覧ください。日常的に利用する拠点に関するアンケートということで、来場された方に日常的にどのような拠点を利用しているのかということ、月に1回以上、買回りの買い物や、飲食、文化活動、レジャーなど何か用事があるときに利用する広域的な拠点にシールを貼っていただくかなと考えております。来場された方がどの拠点を利用しているのかをコミュニケーションの足がかりとしてお伺いしたいと考えております。

5ページ以降につきましては、都市機能誘導区域を設定する4つの拠点、聖蹟桜ヶ丘駅周辺、多摩センター駅周辺、永山駅周辺、唐木田駅周辺、それぞれ1拠点パネル1枚で、上段に都市計画マスタープランの方針を記載しておりまして、拠点でどのような方針が位置づけられているのかを示しております。方針を具体化していくため、どのような都市機能誘導区域を設定していくのか、大まかな範囲と、下段の表で、行政、商業、医療、金融、文化・交流などの誘導施設の候補を挙げておりまして、参加された方に、自分にとってないと困る施設、そのほかに駅周辺にあるべき施設は何かということで、シールを貼っていただき、利用している方のご意見を誘導施設の検討に反映していきたいと考えているところでございます。

こちらに挙げている施設以外にもいろいろなご意見が出てくると思いますので、こちらにつきましてはポストイットに記入していただき、その他の欄に入れていきたいと考えているところでございます。

6ページが多摩センター駅周辺、7ページが永山駅周辺、8ページが唐木田駅周辺でございます。都市機能誘導区域は地形・地物で区切るのですが、今回は大まかな範囲で、この辺りですということを示しながら進めていきたいと考えているところでございます。

また、9ページ以降の本市の特徴のパネルにつきましては、骨子の現状と課題から抜粋したものでございます。このようなものを少しお見せしながら、市民の皆様からのご意見を頂戴したいと考えているところで

ございます。

以上で日程第4「オープンハウスについて」の説明を終わります。

中林会長 ありがとうございます。それでは、今の資料についてなんですけれども、これはオープンハウスを前提に、例えばこうしたほうがいいんじゃないかという、そういう御意見も含めていただくということによろしいですか。

それでは、御質問と、それから御意見も含めてあればと思いますが、いかがでしょうか。

西浦副会長 このアンケートというか、いろいろな施設の投票をしてもらって、これはすごくいいことだと思うんですが、同時にこの投票で答えてくださった人の家族構成とか、どこに住んでいてどういうライフスタイルかといった属性データはどうやって取りますか。

事務局 その辺りの情報の収集は考えていないです。

西浦副会長 大事なんではないかなと思って。どこに住んでいてどういうライフスタイルの人がこれを選ぶかということは、それをちょっと分析か解析かをすれば、ある拠点がこれから5年後、10年後に周りの人口構成など、いろいろなものが変わっていった場合に、どのような拠点がふさわしいかということをも多少なりとも先を見通せるということにつながるかもしれないので、どうやって取るかはお任せしますけれども、できれば属性データを収集していただきたいと思います。。

事務局 よくある方法としましては、御高齢の方が赤で、子育て世代の方は青色などシールの色で年代を分けるという形がありますので検討したいと思います。

西浦副会長 地域拠点は周りに支えられているので、広域拠点は別としても、何かそういうものの変化に対応できるようなデータの取り方というのをできる限り工夫してもらえればいいんじゃないかなと思いました。よろしくをお願いします。

中林会長 これは、シールを貼るというんだけど、赤い丸いシールみたいなものがぱっと貼ってあるシールシートを渡して、貼ってくださいみたいなイメージですよ。

事務局 そうです。おっしゃるとおりです。

中林会長 そうすると、手間がかかるんだけど、それを渡すときに、年齢とか、家族とか、そういうことぐらひは聞いておいて、シールに番号が振ってあれば後から一応統合はできるということで、書かないという人は書かないでやるしかないんですけども、そのようなことで、手間はかかるけれども、やろうと思ったら、ちょっとできそうですよね。

それから、この施設の例が「シールを貼ってください」だけだとフリーアンサーで、こんなものが欲しいということが書けないんですよ。だからそういう意味では、その他というところには、ポストイットか何かで、こんなものが欲しい、あんなものが欲しいみたいなのをちゃんと書いてもらって、あるいはその自由欄みたいなものを別枠で取れば、御意見はそちらへ直接記入するか、ポストイットに書いてもらったものは貼っていくということで行けるかなという気がします。

特に永山駅周辺などは、行政機能に本庁舎としか書いていないんですけども、これは本庁舎の意見が本当に出るのかどうか分からないんですけども、多摩センターみたいにもうちょっと駅近で行政窓口があると便利なのになみみたいな意見をお持ちの方がいるかもしれないし、現在あるのは、何うところだと、マイナンバーカードセンターだけがあるらしいんですけども、そこで何かがあればみたいなのがひょっとしたらあるかもしれないし、そういう意味では、このシールを貼る欄というのをどうつくって、どのように選んでもらうかというよりも、むしろ要望も書き込んでもらうというところを重視する方向での手法を何か考えていただけるといいかなと思ったんですけども。

事務局 はい。

〇〇委員 そうですね。例えば、どこに住んでいる人がいつまでにどこにいるかと、お金さえかければという条件付ですけども、携帯電話の位置情報を利用すると分かるんですよ。将来のニーズに相当するような部分は取れないので、そこを何かうまく取れると、別の形でちゃんと分かるということを前提とすれば、よろしいのではないかなと私も感じました。

事務局 はい。

〇〇委員

この表自体がちょっと硬いんですね。見たときに何か、これから選ぶような感じがして。こういう型どおりのものしか出てこないというものになるので、違った発想と言ったら変ですけども、もっとその他に焦点をあてた方が良くと思います。あと、今後、多分いろいろなものの機能が複合化して一つの施設ということがあると思うのですが、施設でなく、機能が先だと思うんです。「ないと困る施設」みたいになると、答える人が非常に固定的になってしまうのかなというのちょっと心配な気がして、この辺のシールを貼っていただくところの作り方というのは結構上手にやらないと、出てきた答えをどう読むかということにもなるので、少し工夫が要るかなと思いました。

中林会長

最近、うちの近くでもそうなんだけれども、駅前に大きいスーパーがあるんだけど、その駅を利用する人はスーパーがあるから満足しているかというところではなくて、コンビニへ行って振込とかをやってからスーパーで買物をするんですね。大きいスーパーで行政窓口的なサービスがないから。

だからそういう意味では、多摩センターとか聖蹟桜ヶ丘なども、多分、住んでいる人はコンビニで支払いとかをやってしまって、それでスーパーへ買物に来るとか。だから、ぜひ駅近くにあるべきものというのが、今だと、聖蹟桜ヶ丘と多摩センターは出張所があるから、開いている時間なら出張所でやれることが、コンビニだともうちょっと時間がフリーでやれることが増えるはずなので、そういう意味では、コンビニみたいなものがどこへ行ってもあったらいいねという、施設として、物を買うためではなくて、窓口業務を代行してくれるということで出てきそうなところもあると思います。これは実際に資料の大きさを紙で作ってしまうと、10人くらいがシールを貼ったらいっぱいになってしまうような感じなんだけれども、そうすると新しい同じものを何枚も用意しておいて、次にまたシールを貼ってもらうんですか。

事務局

A0のパネルを予定しておりますので、それなりの枠は取れるかなと思います。

中林会長

50人分ぐらい貼れるの。

- 事務局 まだ検証していないので、何とも言えないんですけども。
- 中林会長 上段に自分にとってないと困る施設、下段にそのほかに駅周辺にあるべき施設とあって、この中から何か選べみたいイメージになってしまうんですけども、こういうのが欲しいということが書けるように、もう一回ちょっと工夫していただくといいかなと思います。
- 事務局 その他欄につきましては大きくしようと、今お話を聞いて思っております。また、会長がおっしゃられたように右端のその他欄に自由記述ができるポストイットを貼っていただこうと考えておりますが、自由記述欄を広げることも考えられるかなと思っております。
- 中林会長 その上の図に施設の凡例がずらっとあって、これがないと困るよねということが、これを見るとかなりフォローされているんですけども、この凡例と下の表がすごく乖離してしまっている。この凡例をもっと大きくして、これはないと困るねというものをこの凡例の上を書いて、かつ、用途地域は要らないので、用途地域のところは、そのほか欲しいのは何ということ、ポストイットに書いてもらったのを貼り込んでいくとか、そのようなイメージのほうが、分類してしまうよりもいいかなと思います。分類は後からすればいいので。
- 〇〇委員 オープンハウスに参加する人たちは、どんな人たちが多そうなんでしょうかね。
- 都市計画課長 都市計画課ではあまりオープンハウスをやったことがないので想定ができないんですけども。
- 〇〇委員 何かもう若い世代か我々の世代くらいまでだったら、QRコードを置いてもらえれば、ポチポチと選ぶだけですから、やればいいんですけども、それでもうちょっとデータも自動的にデジタルで取れるので、高齢者でそれが分からないみたいな人はその場で紙で対応できるようにする。だから、割と50代以下の参加比率が高いのであれば、むしろそうしてしまったほうが、それで、少ない高齢者層には少し手をかけるやり方でデータを取ることが良いのかなと思います。
- 中林会長 そうすると、まさにQRコードで拾っておいて、あとは帰りの電車の中でとか、喫茶店へ行ってコーヒーを飲みながらとかそういう形で回答

をしてもらって。

〇〇委員　　そうですね。後でまた思いついたりなどした時にでも。その場で選ぶ形で回答してもらってもいいので、シールを貼るより良いのではないかなと思います。

都市整備部長　　道路交通課でオープンハウスをやったときというのは、圧倒的に高齢の方、50歳以上の方しか立ち止まってくれない、回答に付き合ってくれないという感じはありました。

〇〇委員　　オープンハウスはどこでやるんですか。

中林会長　　2日間でしたよね。

都市計画課長　　はい。2月26日がベルブ永山の消費生活センター講座室で。

〇〇委員　　講座室ね。だから、わざわざ行かなければいけないということなんです。

都市計画課長　　あと3月1日には関戸公民館のギャラリーでやらせていただくんですけども、この2回だけでいいんですかという御意見はいただいたので、図書館のほうにもブースを置いて、実はQRコードをそこに置いて、それを読み込んで回答してもらおうようなところはやれないかと考えていたところではあります。

オープンハウスに来られた方々につきましてはそのようなことは考えていなかったんですけども、今日御意見としていただいた中で、年齢層や、どこのエリアに住んでいるかというところももし聞けるのであれば、そのような項目を追加して回答してもらおうよう検討したいと思います。また、〇〇委員からもいただいたように、オープンハウスでもQRコードを置いておくという工夫などもできるのかなと思いました。回答する方々にあまり負担がないようにはしたいと思うので、オープンハウスでは聞き取りながら聞き取る側が入力していくとか、そういう工夫などもできるのかなと思いましたので、そのやり方の工夫などは少し実現可能性を含めて検討したいと思います。

〇〇委員　　オープンハウスだけかなと思ったのでそういう質問をしたんですけども、むしろ、QRがほかのところにあったら、オープンハウスに来た人はもうちょっとQRのアンケートだけでは聞けないような細か

いところを負担のない形で聞いていくという形のほうがいいと思います。

〇〇委員　　よろしいですか。この日常的に利用する拠点に関するアンケートというのは、5ページ以降とは別に回答するということですか。

事務局　　そうですね。こちらも同じように、パネルを用意してシールを貼っていただく予定です。

〇〇委員　　何人くらい来るかにもよるんですけども、来た人の事実的なことは取ってもいいんですけども、さっき中林会長や〇〇委員がおっしゃったように、イメージ的にあまり客観性はないという感じがします。

中林会長　　そうですね。

〇〇委員　　でも、こういうところにわざわざ来てくれる方は、こうしたいとか、何か思いがあって来る方が多いと思うので、それでいうと、要望とか、そういうことがうまく拾えるほうが恐らく有意義だし、あとちょっと感じるのは、ここ一、二年、意外と50代とかそのくらいの人動いてまちづくりに出てくるような感じが体感としてありまして、今までだと本当に高齢者ばかりという感じがあったんですけども、いろいろなアンケートとかをやっても、意外と50代とかの反応がよかったりするの、ほかの市町村でも何となくその感じがあるので、あまり最初から高齢者としなくて、できるだけ若い人に波及するような宣伝手段とかをうまく使っていただくといいんじゃないかなとすごく思っています。

80代の方々からすると、20年後といたって、そんなにリアリティがないじゃないですか。だけれども、50代くらいだと、これからどうするのかすごく関心があったりとか、何かその辺りの潮目がちょっと、何となく体感としてですけども、変わってきている感じもするので、ぜひそういう現役世代というか若い世代に訴求するような宣伝をぜひやっていただけるといいなと思います。

中林会長　　50代というのは、子育てから解放された世代になるんですね。

〇〇委員　　そうなんです。五、六十代とかね。

中林会長　　今までの子供中心の生活から自分中心になるときに、どうしようかと、そういう世代なんですよ、恐らく。

〇〇委員　　多分そうだと思いますね。

- 中林会長 だから、この後20年、30年、もしまちづくりに目覚めたらまちづくりを頑張りますし、ほかのことに目覚めたらそっちのほうを頑張るといことなので、おっしゃるとおり、50代くらいの人にも宣伝できると良いですね。
- 〇〇委員 おっしゃるとおりですね。大体2040年ものの事業でアンケートをしても、高齢者に答えていただけないと。
- 〇〇委員 そうなんですよ。ここ本当に二、三年、おっしゃるとおり。
- 〇〇委員 もう自分たちには関係ないというので。
- 〇〇委員 そうなんですよ。高齢者からの反応がすごく悪くなっている印象があつて。
- 〇〇委員 一方で50代は、私の同年代を含めてこの後四、五年間ぐらいで200万人ずつぐらいいるんです。
- 〇〇委員 そうですね。
- 〇〇委員 ボリュームゾーンなんですよ。
- 中林会長 で、20年たって70代後半になるから、まあ20年頑張れるかなという状況なんです。
- 〇〇委員 そうなんです。だから、これからどうしようという、すごくそういう意識も高いんです。
- 〇〇委員 そろそろ会社のキャリアも上がりに近づいて、結構人生を考え出すんです。
- 〇〇委員 そうなんです。まさに民間なんかだと、役職定年とかでもみんなそういう感じですよ。
- 中林会長 そうなんです。
- 〇〇委員 切実な話ですね。
- 〇〇委員 でも、まさにその世代に考えてほしいし、コミットしてほしいし。
- 事務局 すみません。そうするとアンケートのやり方なんですけれども、今は、どちらかという回答しやすいと思い、施設を記載しているんですけれども、委員の皆様の御意見を踏まえますと、もっと幅広にニーズを捉えたほうが良いだろうということだと思います。また、施設ではなく、機能だろうという御意見もございましたので、自分にとってないと困る機

能、そのほかに駅周辺にあるべき機能としてしまいまして、ポストイットを貼っていただくようなやり方、プラス、QRコードで同じようにウェブ上でフォームを設けておいて答えていただくみたいなやり方がよろしいかと思いました。QRコードの場合は、おそらく属性もアンケート調査票のように入れられます。オープンハウスの際は、スタッフが聞き取りながら記載するなどの方法で対応できるかと思っておりますが、いかがでしょうか。

中林会長

ぜひそういう工夫で、結果的に、中身は同じなんだけれども、やり方が違うから、集計を別枠でやってもらってもいいんだけど、合わせたらどうなるのかということが見られれば、それはそれでまたいいので、全く中身を別物にされてしまうと2種類やったことになってしまって、合わせようがないので、同じものでやっていただくということで、ちょっと工夫していただけると良いと思います。

5ページ以降はレイアウトを横のレイアウトにして、余白をたくさんつくってあげるだけで、イメージが大分違うんですね。今のレイアウトだと、上から見て行って最後に回答するという形なんだけれども、横にすると、見ながら横に回答を並べていけるようなイメージになるので、最後まで話を聞かないとやれないのではなくて、ぱっと思いついたらぱっと書けるみたいなレイアウトで割とやりやすいと思いました。ただ、スマホでいうと、縦長の画面なので、横長はなかなか苦しいんですけども。そんなことを含めてちょっと御検討ください。お金のことも含めて、いろいろと時間も制限はあるわけだけれども、せっかくの機会ですし、ぜひやっていただければなと思いました。

ほかにはよろしいでしょうか。2か所でやると、永山駅周辺と聖蹟桜ヶ丘駅周辺にいっぱいシールを貼られるんですね、そこでやっているんだから。だから、結果的にはそうなるので、オープンハウスは2か所、2日なんだけれども、もう少しフリーにいろいろ自分の身の回りのことをどう考えているかを伺うというのはすごく大事だなと思いました。

〇〇委員

あともう1点だけですが、都市機能誘導区域のアンケートなんですけ

れども、割とフリーにやるのであれば、一々、一個一個つくらなくてもいいんですけれども、例えば尾根幹線とか拠点とかに対してのフリーな意見というか、せっかくだったらそういうのが書ける場所があれば良いと思いました。はっきり言って大変ですけれども、やれる範囲で結構なので、オープンハウスに来た人がもし言いたいことがあれば書いてもらえるみたいな、そういうスペースがあると、結構尾根幹線のことを気にされている方とか、人によっていろいろあるじゃないですか。だから、何か意見表明できる場所、QRコードでもいいんですけれども、あまり複雑にしない程度でできれば、あるいは、オープンハウスに来て、例えば近隣センターはどうなるのみたいに思ってきた人が、これはどこに書くのみたいなにならないように、まとめてでもいいんですけれども、その他の意見とか、その他の拠点に対してのフリー意見でもいいと思うんですけれども、書けるようなところをつくっていただいたほうが、せっかくだから、よろしいかなとちょっと思いました。

事務局

そうですね。ありがとうございます。

中林会長

ありがとうございます。

それでは、オープンハウスについては、よろしいでしょうか。たくさん意見が出て、かなり夢は広がったので、やってみないと分からないですが、ぜひいろいろな方にいろいろな場所の思いを聞かせていただけることが何よりかなと思いました。ただ、多摩センターと唐木田のことが、どれくらいいきけるか、ちょっと心配です。

それでは、日程第4の「オープンハウスについて」は以上にさせていただきます。

これもちまして、多摩市立地適正化計画検討懇談会を終了したいと思います。熱心に御議論いただきましてありがとうございました。お疲れさまでした。

—— 閉会 ——